

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 2 月 12 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程 1 年
氏名	川北 安奈

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
タンザニア カタヴィ国立公園
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
タンザニアのカタヴィ国立公園におけるキリンの行動観察
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 8 月 15 日 ~ 平成 28 年 11 月 30 日 (108 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
Tanzania National Park
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回、私は東アフリカのタンザニアを訪れ、野生キリンの調査をおこなった。初めてのアフリカ渡航で、予防接種や調査許可の取得といった研究準備から実際のキリンの観察まで、どれも要領を得ない状態で進めたが、多くの人のサポートのおかげで無事にこの調査を終えることができた。タンザニアでの生活とキリンの観察について簡単に報告したい。</p> <p>タンザニアの主要都市ダルエスサラームには、PWS が京大・フィールドステーションを借りており、そこでは京都大学に限らず、東京外国語大学や大阪大学などの多くの日本人研究者や学生たちと出会う機会があった。その先輩方から研究に必要な手続きやタンザニアの文化、習慣について教えてもらい、少しずつ現地の生活に慣れることができた。</p> <p>キリンの調査をおこなったタンザニア西部のカタヴィ国立公園では、PWS 履修生の齋藤美保さんにお世話になった。齋藤さんには、夕食を作ってくれるレストランを紹介してもらったり、2 週間に一度、車で 40 分かけて町まで一緒に買い物へ行ったり、キリンの観察について相談に乗ってもらったりした。はじめの 10 日間は Fred Bercovitch 先生もいてくださり、キリンの観察で注目すべきポイントや動物の痕跡のことなどを習った。私が車のライトを切り忘れてしまい、観察中にバッテリーがあがってしまったときは、Bercovitch 先生が対処の仕方を教えてくださり、押しがけで車のエンジンをかける経験もした。</p> <p>キリンの調査は、どこに行けばキリンに出会えるのか、キリンとの適切な距離はどのぐらいなのか、といった問いの答えを見つけるところからスタートした。学部生のころに動物園でキリンの観察させてもらっていたが、野生での観察は動物園のそれとはまったく異なると感じた。授乳行動や交尾行動を野生で見るのは難しく、オスがメスの発情状態を確かめるフレーメンもあまり目にする事がなかった。また、国立公園ではキリン以外の動物にも注意を払いながら調査をおこなった。とくに、ゾウの動きには敏感になった。キリンの観察に最適な場所であっても、そこがゾウにとって魅力的な水場の近くであれば、ゾウは威嚇音声を発しながら近づいてくる。アジアゾウを研究している PWS 履修生の Nachiketha さんや屋久島実習で一緒だった Sanjeeta さんたちが話してくれたことを思い出しながら、ゾウを怒らせないように気をつけた。キリンには尾が短い、耳に穴がある、片耳、足が腫れている、ワナ掛かった跡、目にコブがあるなど、さまざまな身体的特徴が認められた。今後も身体的特徴や身体の模様を指標</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

に個体識別を進めたい。

今回はじめて野生キリンを観察して印象的だったことの一つに、キリンの採食姿勢があげられる。オスのキリンは頻繁に首を垂直に伸ばして採食するのに対し、メスは首を下げて胴の高さで採食することが多かった。オスは樹冠のある木を採食対象として比較的好く選び、首と頭を上に向けて葉を採取する。そのような木は大きな木陰をつくり、オスは採食後にその木陰で立って休息する。一方メスは、樹冠のない(大きな木陰をつくらない)木を採食対象として選ぶことが多い。つまり上から下まですべての高さで枝葉が伸びている木で、メスキリンはその木の下から上に向かって食べる印象であった。メスは首を下げながら採食する木に接近して、胴の高さで食べ始める。そして、さらにその木に近づき、より奥の葉や上の葉を口にする。下から上へと順に食べることで、一本の木からなるべく多くの葉を効率よく採取しようとしているのではないかと考えた。今回は樹種の同定までできなかったが、樹冠のあるアカシアとないアカシアでは含まれる栄養素が異なるだろうから、今後はその点も検討していきたい。



奥のキリンの左耳には穴が開いている。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



カバの死体は滞在中に3回見た。



同じ場所の写真。10月23日（左）と11月16日（右）。10月末から小雨季が始まり、緑が増えた。

6. その他（特記事項など）

PWS メンターの伊谷原一先生、Fred Bercovitch 先生、齋藤美保さん、PWS 支援室のみなさま、タンザニアでお世話になったり私の渡航を気にかけてくださったりしたみなさまに厚く御礼申し上げます。